日本フィル「被災地に音楽を」

訪問コンサート　レポート　第 48 号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月からはじまり、2020年2月現在、通算293回となりました。

訪問地　　福島県南相馬市

2019年 10 月 4 日（金）	楽器クリニック	会場：原町第一中学校
10 月 5 日（土）	合同リハーサル	会場：ゆめはっと
10 月 6 日（日）	コンサート	会場：ゆめはっと

訪問メンバー

フルート　福島さゆり	オーボエ　佐竹真登	クラリネット　照沼夢輝
ファゴット　大内秀介	ホルン　原川翔太郎	トランペット　奥野儀光
パーカッション　遠藤功		

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団　　東京都杉並区梅里 1-6-1　TEL　03-5378-6311

杉並区と災害時相互援助協定を結んでいる南相馬市には、これまで幾度となく訪問し、コンサートや吹奏楽クリニック、ワークショップを行ってきました。震災前から吹奏楽が非常に盛んだったこの地で、地域をリードしている原町第一中学校（以下、原一中）の定期演奏会にて共演をすべく、今年も南相馬市を訪れました。

原一中の定期演奏会は、近くの原町第二小学校もゲストとして出演し、また合同演奏には原一中の卒業生で現在も高校で吹奏楽を続けている子どもたち、そして一般の方が集い、まさに地域の吹奏楽フェスティバルとなりつつあります。このイベントをさらに盛り上げ、吹奏楽を核として人が集ってほしいとの願いから、今年も同じ形での訪問を決めました。

10 月 4 日（金）楽器クリニック

今回は、木管五重奏の楽器（フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン）に加え、トランペット、パーカッションの楽員が訪れ、指導を行いました。平日の部活動時間という短い時間の中でしたが、基礎的なことから今回演奏する曲までを丁寧に指導しました。各部屋の様子を順番に見ておられた顧問の先生方からは、「普段と全然音が違う！」と短時間で音楽が変わる様子に驚きの声が上がっていました。働き方改革により、部活動の時間も昨年から比べさらに短くなっており、先生は限られた時間の中での練習方法に苦慮されているそうです。

二日後に控えた定期演奏会には、近くにある原町高校の吹奏楽部員も出演することになっており、この日も是非レッスンを受けたいという高校生たちが集まっていました。原町高校には原一中の卒業生も多く在籍しており、中学生の頃から楽員と関わりのある生徒たちは、再会を喜んでいました。

10 月 5 日（土）合同演奏リハーサル

この日は、午前中はパート毎の練習、午後は合奏を行いました。原一中単独ステージの曲では、楽員はホールの客席から音のバランスなどを聴き、先生にアドバイスを。そして子どもたちの隣に座って一緒に吹いたりアドバイスをしたりと、寄り添った指導を行いました。

今回の演奏会で日本フィルと原一中が共演するのはボロディン作曲、オペラ《イーゴリ公》より「だったん人の踊り」。実はこの曲は、震災直後の 2011 年夏の吹奏楽コンクールで、前顧問の阿部先生が演奏曲として選んだ思い出の曲です。本当は別の曲を考えていたそうですが、震災による部員数の激減により曲を変更せざるを得なくなりました。練習することもままならない状況の中、福島県大会では金賞を受賞、さらには日本管楽合奏コンテストで最優秀グランプリを獲得した曲なのです。

「この曲を聴くと泣けてきてしまって・・」と当時のことを語る阿部先生。その思いを引き継いで指揮をするのは、昨年に引き続き鈴木淳子先生です。大変な難曲に挑戦することに最初はためらいがあったそうですが、部員たちと共に懸命に練習を続けてこられました。

10 月 8 日（日）原町第一中学校吹奏楽部コンサート
～日本フィルハーモニー交響楽団　木管五重奏団を迎えて～

原一中のクラシックステージでスタートした定期演奏会。鹿野草平作曲の「よみがえる大地への前奏曲」は、東日本大震災から立ち上がる人々を描いた曲です。3.11 の次へ向かう意味を込め、曲は 312 小節で終わっています。音楽を通して人の心を動かしたいという、ひたむきな思いが感じられる演奏でした。
日本フィルの単独ステージでは、木管五重奏による演奏を届けました。今回選んだ曲は、アーノルド作曲「三つのシャンティ」、ドビュッシー作曲「小組曲」。プロの息の合った演奏を、会場前列では子どもたちが食い入るように聴いていました。

【アンケートの感想】
・5つの楽器だけなのに、1つのハーモニーになって遠い景色を浮かべることができ、とても神秘的でした。（70 代女性）
・音の表現力がすごかったです。肌がビリビリしました。のびやかで引き込まれました。（20 代男性）

合同演奏「だったん人の踊り」は 66 人の大編成で奏でられ、まさに圧巻の演奏でした。会場からは大きな拍手が送られました。
終演後にロビーで行われた交流会では、楽員から部員たちへメッセージを送りました。そして、部員たちからもお礼の寄せ書きが贈られました。当日誕生日を迎えた照沼、遠藤には、保護者の方がサプライズでケーキを用意してくださっていました。それに応え、さらにサプライズ演奏を披露する楽員たち。和やかで、そして名残惜しいひと時を過ごしました。

【番外編】

11 月 10 日（日）荻窪音楽祭 第 6 回みらい夢チャリティコンサート

訪問から 1 か月後、今度は原一中の部員たちが杉並公会堂を訪れ、演奏を披露しました。舞台は 6 回目となるみらい夢チャリティコンサートです。原一中の演奏では、定期演奏会でも披露した曲を演奏し、会場からは長い長い、大きな拍手が送られました。そして合同演奏では、地元杉並区の天沼中学校の部員も加わり、さらに磨きのかかった「だったん人の踊り」を披露しました。原一中の 3 年生は、このコンサートを最後に部活動を引退します。コンクールのように点数や順位で評価されるのではなく、本当の意味で音楽に感動しているお客様を目の前にし、大きな意味のある本番になったと思います。

終演後の交流会では天沼中、原一中の部員それぞれがフラッグにメッセージを書き、交換をしました。そして、ホワイエで寄付の呼びかけを行っていた天沼中ボランティア部の部員たちからはプレゼントも贈られ、まさに互いがエールを送り合う機会となりました。

この春、原一中の卒業生で現在高校 3 年生の生徒、 3 名が音大を受験する予定だそうです。その中の一人、橋本さんが同音楽祭のフレッシュジュニアコンサート（オーディションを通過した子どもたちが、日本フィルの楽員と室内楽で共演するもの）に出演しており、部員たちはそのコンサートを鑑賞してから帰路に就きました。プロの音楽家と一緒に堂々と演奏を披露する姿はとても輝かしく、立派でした。原一中から、音楽を専門的に学びたいという生徒が出てきたことは感慨深く、音楽が将来の希望としてあることをとても嬉しく思いました。

荻窪音楽祭とは
荻窪の街づくりの一環として、ボランティアにより運営される音楽祭。今回で 32 回目を迎え、2019 年 11 月 7 日～10 日の 4 日間にわたり、街の至るところで大小様々なコンサートが開催された。

写真：多比良秀俊

主催:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団　　協力:三菱 UFJ ニコス株式会社